

2 行(12pt)の空行

タイトル:ゴシック, 20pt

# 岩盤力学に関するシンポジウム講演集の 講演原稿体裁サンプル

2 行(12pt)の空行

著者名:明朝/Times 12pt

岩盤 太郎<sup>1\*</sup>・進歩 大輔<sup>1</sup>・亀裂 花子<sup>2</sup>・Jimmy PAGE<sup>3</sup>

1 行(12pt)の空行

所属・連絡先:明朝/Times 9pt

<sup>1</sup>岩力建設株式会社 技術開発部 (〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目無番地)

<sup>2</sup>岩盤大学大学院 工学研究科建設工学専攻 (〒160-0004 東京都新宿区三矢六丁目13-5)

<sup>3</sup>Hard Rock Corp. (1600 Pennsylvania Avenue NW, Washitngon, DC 20500)

\*E-mail: rock\_taro@jsce.co.jp

E-mail アドレス:Times 9pt

1 行(12pt)の空行

(連絡著者のみ)

このファイルは岩盤力学に関するシンポジウム講演集の講演原稿(和文)を作成するために必要な、レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば、所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます。

この要旨を含め、タイトル部分の幅は本文よりも左右10 mmずつ狭くします。要旨のフォントは、日本語は明朝体9 pt、英数字はTimes9 ptを用いてください。要旨の長さは7行以内です。要旨の後に1行空けて、キーワードを5つ程度、Times-Italic 10ptのフォントで書いて下さい。

1 行(12pt)の空行

要旨:明朝/Times 9pt, 最大 7 行

**Key Words :** times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line

ボールドイタリック, 10pt

4 行(12pt)の空行

キーワード:Times イタリック, 10pt, 最大 2 行  
固有名詞以外は頭文字は小文字

章見出し:ゴシック, 11pt

## 1. タイトルページ

本文:明朝/Times10pt

タイトルページは2つの部分で構成されます。

(a) タイトル部分:横1段組(題目, 著者, 所属, 連絡先住所, E-mailアドレス(連絡先著者のE-mailアドレスのみ), 要旨, キーワード)

(b) 本文部分:横2段組, 文字数は25文字, 行数は48行とします。(英文原稿の場合は56行)

単位は「立体」

### (1) タイトル部分のレイアウトとフォント

全てのページのマージンはこのサンプルにありますように上辺19 mm, 下辺24 mm, 左右ともに20 mmに設定してください。タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ10 mm ずつ大きくとって下さい。すなわち、A4用紙の幅に対して左右それぞれ30 mm ずつのマージンをとります。そして以下次の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい。

- ・タイトル:ゴシック体20pt, センタリング  
(2行 (12pt) の空行)
- ・著者名:明朝体/Times 12pt, センタリング  
(2行 (12pt) の空行)
- ・著者所属:明朝体/Times 9pt, センタリング
- ・E-mailアドレス:Times 9pt, センタリング

(1行 (12pt) の空行)

- ・要旨:明朝体/Times 9pt, 7行以内

(1行 (12pt) の空行)

- ・キーワード:Times-Italic, 10pt, 5つ程度, 2行以内

(4行 (12pt) の空行)

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、上記のように並べて下さい。また、著者のうち、連絡先著者となる方の名前の右肩には「\*」を付し、そのE-mailアドレスを上記の見本のように「\*」の後に記載してください。限られた紙面ですので、肩書きや学位の記載は省略いただき、所属はできるだけ取りまとめてください。

'Key Words' という文字はボールドイタリック体にします。また、各キーワードは固有名詞を除いて小文字で始めてください。

### (2) 本文部分のレイアウトとフォント

キーワードの後に4行 (12pt) 空けて、本文を開始してください。

本文は2段組で、左右のマージンは20 mm ずつ、段と段との間のスペースは約6 mm とします。文字数は25文字、行数は48行とします。

本文のフォントは、日本語は明朝体、英数字はTimes/Symbolとし、文字の大きさは10 ptを用いてください。

日本語フォントにおけるギリシャ文字（ $\sigma$   $\delta$   $\varepsilon$  等）の使用は可能ですが、機種／フォントに依存する特殊文字（○付数字，ローマ数字，全角 1 文字に変換した単位等），半角カタカナおよび HG 系のフォントは文字化けの原因となるので使用しないでください。

文字色は黒を用いてください。図・表・写真等については色の制約は設けませんが，白黒モニター／プリンタに出力した際に問題が生じないように配慮してください。

和文原稿の場合でもカンマ「，」とピリオド「。」を用いてください。句読点「、」「。」を用いないこと。

カンマ「，」やピリオド「。」あるいは文献番号<sup>3)</sup>などが行頭にこないようにすること。また，カッコが行末にこないようにすること。

## 2. 一般ページ

第2ページ以降はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します。

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

専門用語は，JISに基づき正しく用いて下さい。以下によくある間違いを例示します。

- ・誤「一軸圧縮強度」⇒正「一軸圧縮強さ」
- ・誤「破壊基準」⇒正「破壊規準」

章の見出し:ゴシック11pt, 上2行 下1行の空行

## 3. 見出し（見出しが1行以上に長くなる時はこの例のようにインデントし折り返す）

節の見出し:ゴシック10pt, 上1行の空行

### (1) 見出しのレベル

見出しのレベルは章，節，項の3段階までとします。章の見出しはゴシック体とし，2.などの数字に続けて書きます。また，見出しの上下にスペースを空けます。このファイルのサンプルから分かるように，上を2行，下を1行程度空けて下さい。ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整して下さい。

### (2) 節の見出し

節の見出しもゴシック体で，(4)などの括弧付き数字を付けます。見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

#### a) 項の見出し←項の見出し:ゴシック10pt, 上に空行なし

項の見出しもゴシック体で，片括弧付きアルファベットを付け，上下には特にスペースを空けません。項より下位の見出しは用いないで下さい。

## 4. 数式および数学記号と単位

### (1) 数式および数学記号

数式や数学記号は次の式 (1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z \, dz \quad (1b)$$

のように本文と独立している場合でも， $C_D, \alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します。数式や数学記号の品質が悪いと原稿として受け付けません。

数式はセンタリングし，式番号は括弧書きで右詰めにします。数式と式番号との間にリーダーを付けないでください。

式や図に使われる文字，記号，単位記号などは，できるだけ常識的な記号を使い，必要に応じて記号の一覧表を付録としてつけてください。数式はできるだけ簡単な形でまとめて，式の展開や誘導の部分を少なくして文章で補ってください。式を書く場合には，記号が最初に現われる箇所に記号の定義を文章で表現して使用してください。また，同一記号を2つ以上の意味で使うことは避けてください。

本文中の式番号は，式(1)，式(2)のように表記してください。

数字および記号（特に上付，下付のあるもの）は2行にわたらないようにすること。

### (2) 単位

単位は原則としてSI単位を使用すること。従来単位系を用いる場合は，カッコ書きで併記してください。

例：9.8 kN/m<sup>3</sup> (1 tf/m<sup>3</sup>)，0.49 MPa (5 kgf/cm<sup>2</sup>)

単位の字体には「立体」を用い，「斜体」や「イタリック」を用いないでください。

## 5. 図・表・写真

### (1) 図・表・写真の位置

図表はそれらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします。原稿末尾にまとめたりしてはいけません。また，図表はそれぞれのページの上部または下部に集めてレイアウトして下さい。図表の横幅は，

「2段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1 や図-2 のように「1段の幅いっぱい」のいずれかとします。図表の幅を1段幅以下にして図表の横に本文テキストを配置することはやめて下さい。図表と文章本体との間には1～2行程度の空白を空けて区別を明確にします。

## (2) 図・表・写真中の文字およびキャプション

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください。特にキャプションの大きさ (9pt) より小さくならないようにして下さい。

長いキャプションは表-1のようにインデントして折り返します。

「図-1」, 「表-2」, 「写真-3」はゴシック体で表示し、ハイフンもしくはマイナスイで結ぶこと。

図表番号の本文での引用:ゴシック

## 6. 参考文献の引用とリスト

参考文献は出現順に番号を振り、その引用箇所でのように<sup>1)</sup>上付き右括弧付き数字で指示します。参考文献はその全てを原稿の末尾にまとめてリストとして示し、脚注にはしないでください。

本文中の引用は<sup>1)</sup>ではなく、このように<sup>1),5)</sup>としてください。

本文中で引用は、3名以上の場合に限り、第一著者のみを書き、あとを“ほか”もしくは“et al.”などと省略してかまいません。

参考文献は、原稿登載後に時間が経過してもたどれるものだけを挙げて下さい。すなわち、インターネット上のホームページアドレスや私信などを参考にした場合は、本文末の参考文献に挙げずに本文中または脚注で示してください。

参考文献リストの書き方は、論文の場合は著者名、論文名、雑誌名(書名)、巻号、ページ、発行年の順に記入してください。発行年については、西暦を使用してください。英文雑誌の場合は、姓、イニシャルとしてください。著者数が多い場合でも参考文献リストには全ての著者名を記載してください。単行本の場合は、著者名、書名、ページ、発行所、発行年とします。英文の単行本の場合は、書名は各単語とも頭文字は大文字としてください。英文の雑誌名、書名はイタリック体とします。

和文の場合も参考文献リスト中の人名はカンマでつないでください。

良い例: 「高橋茂, 木村直樹: 地盤の……………」

悪い例: 「高橋茂・木村直樹: 地盤の……………」

参考文献リストの一つの項目が2行以上にわたるとき、2行目以降はインデント(頭下げ)してください。

ゴシック 9pt  
明朝 9pt  
表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ $h$ (m)	幅 $w$ (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

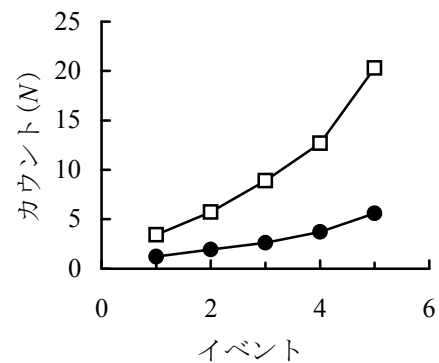


図-2 図のキャプションは図の下に置く  
図表と本文の間は1～2行の空行

## 7. 最終ページのレイアウトと英文要旨

### (1) 最終ページのレイアウト

最終ページには英文のタイトル、著者名および要旨を横1段組で書きます。このサンプルにあるように、本文や参考文献リストまでの2段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし、10 mm程度の空白を入れて英文要旨を配置します。

### (2) 英文要旨部分(和文原稿のみ)

和文原稿の場合は、最終ページに7行以内の英文要旨をつけます。

タイトル部分と同様に、本文よりも左右のマージンを10 mmずつ広くとり、横1段組で、次の項目を書いてください。

- ・英文タイトル: Times 12 pt, センタリング(タイトルはすべて大文字)

1行の空行(12pt)

- ・英語著者名: Times 12 pt, センタリング(名は頭文字のみ大文字, 姓はすべて大文字。)

1行の空行(12pt)

- ・英文要旨: Times 10 pt, 7行以内

英文タイトルはすべて大文字としてください。また英語著者名は、名前は頭文字のみ大文字で姓は全て大文字としてください。

英文要旨は、国外への成果の発信の面で重要であるので、研究の成果がその内容に十分反映されるようにし、また英文についても英語を母国語とする人の校閲を受けるなどの配慮を行ってください。

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

### 付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に置くこと。

- ゴシック, 10pt
- 9pt
- 参考文献
- 1) 山田靖紀, 辻田 満, 脇田和試：山岳トンネルおよび周辺岩盤の地震時挙動, 土木学会論文集, No.374/I-6, pp.249-259, 1986.
  - 2) Barton, N., Bandis, S. and Bakhtar, K. : Strength, deformation and conductivity coupling of rock joints. *Int. J. Rock Mech. & Geomech. Abstr.* 22(3), pp. 121-140, 1985.
  - 3) 都城秋穂, 久城育夫：岩石学 II, 岩石の性質と分類, 共立全書 205, p.171, 共立出版, 1975.
  - 4) 国立天文台編：理科年表, pp.726-764, 丸善, 1993.
  - 5) Franklin, J.A. and Dusseault, M.B. : *Rock Engineering*, p.296, Mc Graw Hill, 1989. ← 英文書名, 雑誌名はイタリック
  - 6) Smith, W. : Cellular phone positioning and travel times estimates, *Proc. of 8th IIS World Congress*, CD-ROM, 2000. ← 発行年は西暦  
長い場合はインデント

英文タイトルのマージンは 10 mm 余分に

PRINT SAMPLE FOR JAPANESE MANUSCRIPT FOR PROCEEDINGS OF THE SYMPOSIUM ON ROCK MECHANICS

1 行 (12pt) の空行

Taro GAMBAN, Daisuke SIMPO, Hanako KIRETSU and Jimmy PAGE

1 行 (12pt) の空行

The present file has been made as a print sample of the manuscripts for Proceedings of the Symposium on Rock Mechanics. Its text describes instructions to prepare the manuscripts: the layout; the font styles and sizes; and others. If you replace the text or the figures of the present file by your own ones, using CUT & PASTE procedures, you can easily make your own manuscripts.

This English ABSTRACT has narrower width than the main text by 10 mm from the left and the right margins of the main text, respectively. Font used here is Times-Roman 10pt. The length should be within 7 lines. It is preceded by the title and the authors; both are centered and the font size is 12pt.

英文要旨のマージンは 10 mm 余分に

英文著者名: Times 12pt  
First name は頭文字のみ大文字  
Family name は全て大文字

英文タイトルのマージンは 10 mm 余分に

英文要旨: Times 10pt, 7 行以内

# Instructions for Manuscript for JSCE Journals/ Author Guidelines for Manuscript Preparation for JSCE

Top margin 19 mm  
Left margin 20 mm

about 10 mm

about 15 mm

12 pt

18 pt, bold

Taro DOBOKU<sup>1</sup>, Hanako YOTSUYA<sup>2</sup> and John SMITH<sup>3</sup>

about 5 mm

<sup>1</sup>Member of JSCE, Professor, Dept. of Civil Eng., University of Doboku  
(Yotsuya 1, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0004, Japan)

E-mail: doboku@jsce.ac.jp

<sup>2</sup>Member of JSCE, Dept. of Civil Eng., Doboku Corporation  
(13-5, Mitsuya 6, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0004, Japan)

E-mail: hanako@jsce.co.jp

<sup>3</sup>Member of JSCE, Professor, Inst., Industrial Science, University of Tokyo  
(7-22-1 Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106-8558, Japan)

E-mail: smith@jsce.or.jp

9 pt

about 10 mm

10 pt

This template is prepared for your preparation of manuscript for JSCE journals. It provides instructions: page layout, font style, size and others. You may use it to create your own manuscript by replacing the relevant text with your own, using "cut & paste."

The Abstract should be justified, leaving a 30 mm margin on the left and right sides. Font should be a 10-point Times-Roman. The length should be 300 words or less.

about 5 mm

**Key Words** : *times, italic, 10pt, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line*

10 pt, bold Italic

about 10 mm

10 pt, Italic, max 2 lines

## 1. TITLE PAGE

12 pt, bold

The first page consists of two parts:

11 pt

(a) Front matters : single column (title, author(s), affiliation(s), contact address(es), E-mail address(es), abstract, key words) E-mail address should be indicated in a separate, independent line.

(b) Main text in double columns.

The journal name, volume and issue numbers and the date of issue should be aligned right in the top margin. Page numbers are to be put in the bottom margins of the manuscript. Some word processing softwares do not allow texts in both single and double columns to be put together in one file, and thus, create two separate files for the title page.

### (1) Layout and fonts for the front matters

Left and right margins for the front matters are equally set at 30 mm, The front matters are, thus, to be laid-out within the borders narrower than those for the main text.

The front matters include the followings:

(About 10 mm blank space)

**Title** in Times-Roman, 18pt, bold

(About 15mm blank space)

**Author(s)** in Times-Roman, 12pt.

(About 5 mm blank space)

**Affiliation(s)** in Times-Roman, 9pt.

**E-mail address(es)** in Times-Roman, 9pt

(About 10 mm blank space)

**Abstract** in Times-Roman, 10pt, max. 300 words, (1 line spacing) and

**About 5 Key Words** in Times-Italic, 10pt, (max. 2 blank lines).

The name(s) and affiliation(s) of the author(s) should be numbered in order of appearance as shown above. The title '**Key Words**' is bold and italic.

### (2) Layout and fonts of the main text

The text should be placed about 1cm below the key words. Left and right margins for the text are equally set at 20 mm. The text, in double columns put side by side with 6 mm gap in between, must be single-spaced with double spacing between chapters. Use 11pt Times-Roman font for the text.

### (3) page number

Page numbers should be center-aligned and should appear at the bottom of each page. Since these pieces of information will be notified by the secretariat of JSCE before completing the final manuscripts, leave the blanks as they are, and number the pages tenta-

right margin 20 mm  
bottom margin 24 mm

10 mm

10 mm

6 mm

tively from 1.

2 lines

## 2. ORDINARY PAGES ← 12 pt, bold

In ordinary pages, the text must be placed within borders immediately below 19mm top margin. The other layout is same as the main text in the title page.

### (1) Footnotes and remarks ← 11 pt, bold

Avoid using footnotes and/or remarks. If any, try to explain it in the text, or in appendices.

## 3. HEADINGS (INDENT LIKE THIS SAMPLE IF IT IS LONG)

1 line

### (1) Main heading

Capital letters in 12pt bold face fonts should be used for main headings (chapter titles) that follow the chapter numbers as is shown in this example. Leave double and single spacing of lines before and after every main heading.

1 line

### (2) Sub-headings for sections

The sub-headings for sections, in 10pt. bold face fonts, with their initial letters capitalized, are preceded by parenthesized section number like (2). Leave single spacing of line before every sub-heading.

#### a) Sub-headings for sub-sections ← 11 pt, bold

They are written just as the sub-headings for sections are done, but follow alphabets with right parentheses. No spacing of lines is left before and after every sub-heading.

## 4. MATHEMATICS

Use special high quality fonts for all mathematical equations in the text. Some equations may be placed off the text as:

centered → 
$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

centered → 
$$F = \int_{\Gamma} \sin z dz \quad (1b)$$

and some appear in the text as.  $C_D$ ,  $\alpha(z)$  If their quality is not satisfactory, the manuscript may not be accepted. Numbered equations ((1a) and (1b) for example) should be center-aligned. The equation numbers in parentheses should be placed flush right.

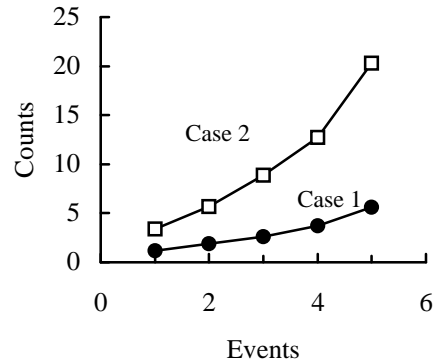
Within 56 lines per a column

9 pt, bold

9 pt

**Table 1** Caption should be centered, but if it is long, it should be indented like this.

Specimen No.	Heights (m)	Width (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65



**Fig.2** Place the caption below the drawing.

1 or 2 lines

## 5. FIGURES AND TABLES

### (1) Location of figures and tables

Figures, tables and photographs should be inserted at the upper or lower part of the page where reference is first made to them. Do not place them altogether at the end of the manuscript.

Figures or tables should occupy the whole width of a column, as shown in **Table 1** or **Fig.2** in this example, or the whole width over two columns. Do not place any text besides figures or tables. Insert about one to two lines spacing above the main text.

### (2) Fonts and captions

Do not use too small characters in figures and tables. At least, the letters should be larger than those in the captions (9 pt). Captions should be centered, but long captions must be indented like an example of **Table 1**. The heading of captions is 9pt bold face.

## 6. CITATION AND REFERENCE LIST

All the references must be numbered in the order of appearance in the article and the right parenthesized numbers are used at the text where it is referred like this<sup>1)</sup>. The reference list must be summarized at the end of the main text. Use 9pt font for the list. The reference list is followed by the date of acceptance

with one line spacing between them as shown in the present sample.

**ACKNOWLEDGMENT:** Acknowledgment should follow Conclusions and its text should be preceded by bold face heading directly.

## **APPENDIX A    APPENDIX**

Appendix should be placed between Acknowledgment and References.



## **REFERENCES**

- 1) Miles, J. W. : On the generation of surface waves by shear flows, *J. Fluid Mech.*, Vol. 3, Pt. 2, pp. 185-204, 1957.
- 2) Miche, M. : Amortissement des houles dans le do-main de l'eau peu profonde, *La Houille Blanche*, No. 5, pp. 726-745, 1956.
- 3) Gresho, P. M., Chan, S. T., Lee, R. L. and Upson, C. D. : A modified finite element method for solving the time-dependent incompressible Navier-Stokes equations, part 1, *Int. J. Numer. Meth. Fluids*, Vol. 4, pp. 557-598, 1984.
- 4) Shepard, F. P. and Inman, D. L. : Nearshore water circulation related to bottom topogrphy and wave refraction, *Trans. AGU.*, Vol. 31, No. 2, 1950.
- 5) Smith, W. : Cellular phone positioning and travel times estimates, *Proc. of 8th ITS World Congress*, CD-ROM, 2000.